

## 事務局から

## 編集後記

▼総会を終え、研究所の新しい年度が始まりました。総会に先立ち、会員の声に応え、小中高の先生方から今の学校現場の様子を聞く機会を設けた。研究所をめぐる状況は厳しいが、会員の要望にできるだけ応える活動を目指したい。

▼議案書にあるように、年3回発行している今の「教育情報」「研究所通信」を2020年度からどのようにするか、所員会議で継続的に話し合っている。「年4回程度の通信と年1回冊子の発行すること」を一つの案として検討している。

▼前記と同時に、会費についても、値下げに向けて検討をしている。必要経費、今後の会員状況の見直しなど精査を進めながら結論を出したい。

▼新潟県の教員採用試験の倍率が全国で最低と報道された。その一因が教員の長時間過密労働（ブラック労働）であろう。研究所は「教育情報」105号（2011年3月）で「教職員の『長時間過密労働を』考える」を特集している。教員の労働時間、労働環境の改善は、喫緊の課題である。

▼子育ては古来、古くて新しいテーマである。ところが最近では従来と異なる問題が出てきた。インターネットやスマホなどの情報機器が親と子の間に介在してきたからである。しかも子どもたちは生まれながらにこの情報社会で育ってきたわけで私たちのように大人になってからこれらの情報機器に触れたわけではない。したがってその分だけ、情報機器への対応に落差があるのかもしれない。

どう情報過多の子どもたちに接すべきか、ある種の混乱は避けがたい。便利さや情報過多に子育てはどう対応するのか、そんな問題意識でテーマを設定したが、私たちにも妙案があるわけではない。

▼「あふれる情報を選んで」のお母さんのインタビューを読むと、便利さとマイナスマを上手に使い分けているようにみえる。現代社会のあふれる情報をどう使いこなすかを、子供のときに身に付けさせるかに尽きるように思われる。

▼木下さんは高齢者、障害者に「バリアフリー」という概念があるように子育てにも安心、安全で子育てしやすい「バリアフリー」があつてしかるべきではないかと指摘しておられる。今年も多くの子どもの虐待が報

じられるたびに胸を痛めた。大事な問題提起だと思ふ。

▼インターネットやスマホの問題をめぐっては親と子、先生と生徒の間で話題にするのが対立的になるが、「自分を大切に考える子ども」が育つには矢澤さんが指摘するように、やはり「知って」「考えて」「話し合う」が、所詮は一番の近道かもしれない。

新しい年を前に時代の変化の予感を感じつつ、会員皆様のご健康とご活躍をお祈りいたします。一年間、ご厄介になりました。

(大滝)

### にいがたの教育情報 No. 128

2018年12月20日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所

発行人 小林 昭三

〒951-8116

新潟市中央区東中通1-86 山崎ビル

電話・FAX (025)228-2924

振替口座・00640-0-12332

Eメール kyoiku@triton.ocn.ne.jp

印刷所・神林印刷

TEL 0254-66-7959